

地方でのオーファンドラッグ使用状況と輸入感染症領域での薬剤師の関わりについて

渡邊 真一

松山大学薬学部 医療薬学臨床部門 医療薬学研究室



近年、わが国の海外渡航者数は年間 1,700 万人前後で推移しており、愛媛県においても年間 10 万人前後が海外へ渡航している。特に県内在留外国人数は増加の一途をたどっており、平成 28 年には 11,000 人を突破した。また、外国人観光客数も増加傾向にあり愛媛県内においても海外で流行する感染症に遭遇する機会が増えている。このような背景から海外渡航時に摂取するワクチンや、輸入感染症治療薬の備蓄・供給も含めて薬剤師が関わっていくことはこれまで以上に重要になると考えられる。

愛媛大学医学部附属病院では、抗マラリア薬のような輸入感染症用薬あるいは髄膜炎菌ワクチンや狂犬病ワクチンといった海外渡航前に接種するワクチンを幾らかは在庫しているものの、その数は十分とは言えない。しかしながら、地方の病院において必要以上に在庫を置くことはデッドストックとなることもしばしばあるため、在庫数の設定や使用期限管理には注意を要する。デッドストックを減らしつつも必要時には対応できる体制をとるためには、病院内の在庫のみでなく卸業者と連携し供給体制を確認しておくなどの対策も必要となってくる。また、2017 年 2 月にはデング出血熱等の 1 類感染症対策のため第一種感染症病棟が立ち上がり、対応シミュレーションも実施されてきたが、これまでに国内へ持ち込まれたことのない感染症への対応も今後は考慮しなければならない。

本セッションでは、地方病院における輸入感染症領域での薬剤師の関わりと問題点等について報告する。

【略歴】

- 2004 年 3 月 摂南大学薬学部 卒業
- 2006 年 3 月 摂南大学大学院薬学研究科薬学専攻博士前期課程 修了
- 2006 年 4 月 愛媛大学医学部附属病院薬剤部 入職
- 2012 年 4 月 感染制御専門薬剤師 取得
- 2014 年 3 月 博士（薬学）学位取得（福岡大学）
- 2015 年 1 月 愛媛大学医学部附属病院薬剤部 主任
- 2015 年 4 月 愛媛大学医学部附属病院感染制御部 副部長
- 2018 年 4 月 松山大学薬学部 医療薬学臨床部門医療薬学研究室 准教授